

令和5年度 第3回磐田市総合教育会議 会議録

日 時 : 令和5年12月25日(月)午後3時30分~午後5時

会 場 : 磐田市役所 本庁舎4階 大会議室

出席者 : 市長、副市長、教育長、
鈴木好美委員、秋元富敏委員、大橋弘和委員、阿部麻衣子委員
(出席者7名)

事務局 : 企画部長、教育部長、政策推進課長、教育総務課長、学校教育課長、
政策推進課総合戦略グループ長、教育総務課総務グループ長、
学校教育課指導グループ長、担当

傍聴者 : 5名

【会議次第】

1. 開 会

2. 市長あいさつ

3. 協議事項

(1) 小中学校における「自由な学び」の取組について

A班: 市長、秋元委員、阿部委員、教育部長、政策推進課長、学校教育課長

B班: 副市長、教育長、鈴木委員、大橋委員、企画部長、教育総務課長

(2) 令和6年度総合教育会議について

4. 閉 会

[協議の主な内容]

発言者	発言内容
事務局	<p>本日はご多忙の所ご参集いただきまして誠にありがとうございます。</p> <p>ただいまから令和5年度第3回の総合教育会議を開会いたします。会議に先立ちまして皆様にご案内させていただきます。総合教育会議は、地方教育行政組織の運営に関する法律第1条の4、第6項において原則公開となっております。</p> <p>会議録についても要点をまとめた上、磐田市ホームページで公開をさせていただきます。</p> <p>なお、会議も原則公開ということで、傍聴の皆さんが数名お越しいただいておりますのでご承知おきください。それでは開会にあたり市長からあいさつをお願いします。</p>
市長	<p>改めまして皆さんこんにちは。</p> <p>年末の忙しい中、総合教育会議にお越しくださいましてありがとうございます。</p> <p>令和5年度最後の総合教育会議になりますが、今日はせっかく傍聴で来ていただいた皆さんがいらっしゃいますので、少しこの総合教育会議についてお話をさせていただきます。</p> <p>教育委員会制度が変わって、シビリアンコントロールと言われた政治と教育の距離感というものが数年前から変わってきました。その改革の代表格が、総合教育会議の設置というもので、この総合教育会議の中で首長部局と教育委員会が方向性のすり合わせをしたり、予算についての協議をしたり、意見交換の場を作りながら方向性を示していこうという目的で開催されています。</p> <p>その最たるものが、6つの培うというキーワードを掲げた教育大綱を決めたということです。例えばこころざしを培う、礼節を培うなど、これは東井義雄先生という昭和時代の教育者が培基根という、人を育てるには根を育てていけば自ら育つということを言われた本を書かれた方がいらっしゃって、その方の培うという言葉を参考に、6つの培う、いわゆる根っこをしっかり育てていこうと、そのために土を育て、水もあげていこうということを磐田の教育の方向性として示したということで、これはしっかり継続していきたいと考えているところであります。</p> <p>また、そうした中で総合教育会議の在り方もいろいろ試行錯誤しております。特に今年度はこれで3回目。例年、年2回開催していましたが、今年度は3回開催したということで、できるだけ今の課題感や今私たちが目指している方向性の中で、外部の方にお話を聞いてみたりしながら課題を共有していこうという取り組みをこの1年間に行ってきました。</p>

今日は、今磐田市が力を入れている学びと対話というキーワード。特に対話の部分。この対話の部分で重要なのがファシリテートという技術、そのファシリテートという技術を持っているファシリテーターという方々が静岡県内で何人か活躍してしまっていて、磐田市はご存じの通りファシリテーター養成講座を市民の皆様向けに開催しておりますが、今日はそのファシリテーター養成講座や、市民が主役のまちづくり条例のワークショップに携わっていただいている原口佐知子さんにお越しいただきました。

教育委員の皆さんがファシリテートについて学ぶということ、それをどのように学校現場に落とし込んで、特に児童・生徒同士の話し合いや、児童・生徒と教師の話し合い、教師と保護者の話し合い、保護者同士の話し合いの場所にこの技術をどうやって持ち込みながら、今までであれば、先生が一方的に多くの人数に向かって説明して、多くの人の中で挙手した人だけが発言できるみたいな話し合いから、話し合いの技術を持って、より多様な意見を引き出すとか、相互理解が進むということがファシリテートの技術でできるようになる、それを教育委員の皆さんと実体験の中で学んでいきたいということが今回の趣旨です。

限られた時間の中でより有意義な会議にしていきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。冒頭のあいさつは以上です。よろしくお願いいたします。

事務局

ありがとうございました。それではこの後の会議の進行は、議長となります市長にお願いをしたいと思います。市長、進行をお願いします。

市長

それでは、協議事項に移りたいと思います。1つ目の協議テーマは、小中学校における自由な学びの取り組みについてですが、みんなが主役のまちづくり条例ワークショップなどでファシリテーターを務めていただいているMusubiの原口佐知さんに進行をお願いしています。

磐田ここからラボでは多くの市民が多様な学びを楽しみ、対話を通じて人と人との交流が生まれることを目指して様々な取り組みを行っております。その一環で小中学校では、ホンモノに触れる自由な学びに取り組んでいます。対話をキーワードとしてこれから取り組んでいくにあたって、ファシリテートというものに触れていただきたいということで原口さんをお願いしております。時間の都合で、原口さんのご紹介は割愛させていただきますので、お手元の資料をご覧くださいと思います。それでは原口さん、進行をお願いします。

原口氏

皆さん、こんにちは。よろしくお願いいたします。

今日は学びと対話をということで、対話をみなさんに体験していただきたいと思います。このような机の形でくっつきながら、皆さんに親近感を持っていただきながら取り組んでいたいと思っております。

プロフィールですが、少しだけお話させていただきます。今日は牧之原市から参りましたが、生まれは東京です。結婚を機に牧之原に住んでいます。

本業は水産業で魚の仲卸をしておりますので、今は結構忙しい時期です。朝から伊勢海老とか冷凍食品の伝票を切ってからこちらに来ました。

2番目の名刺としてファシリテーターというものをやっています。これは、牧之原市が平成17年に合併した後、すぐにファシリテーションをまちに取り入れ、市民としてのファシリテーターの育成をしたのがきっかけとなっています。

福祉関連では、2004年から牧之原市の民生児童協議会委員を12年間務めました。その関係で今も指導員として評議委員は続けております。

過去の議事録を見ると、特別支援や発達支援の話が出ていましたが、静岡県の就労支援事業所などで発達支援の指導も行ってきました。その関係で今も精神科の通院同行や、勤務先に訪問して、発達支援が必要な方たちの支援をしております。20代、30代の就労している子たちが中心になります。

そして今市長からお話がありました、磐田市との関わりが2年目になります。ワークショップや、市民ファシリテーターなどの研修、先日も主任児童委員さんなどの研修をさせていただいたところです。民生委員・児童委員さんは昨年ちょうど一斉改選されたわけですが、新型コロナの影響で全然研修ができていなかったそうです。学校からも来ないでと言われたそうで、全然研修ができなかったことでやらせていただきました。

また、来年6月議会の上程に向けまして、みんなが主役のまちづくり条例の説明会がちょうど終わったところです。あとは、全住民アンケートのワークショップさにも参加させていただきました。そんなところで自己紹介を簡単にさせていただきました。

今日の目的ですが、市内全小中学校で実施している自由な学びの取り組みを共有します。

磐田市が目指す自由な学びとは何なのかを考えていただきたいと思います。自由な学びと言うことで、実際にみんな違うことを考えられるのではないかと思います。いろいろな意味合いがあると思います。それに対して今日は対話を体験しながら進めていきたいと思っています。今、話があったように小学校、中学校で、学校に行けなくなってしまったり、上手に話せない子がいたりしますよね。大人もこういう会議の場面において、手をあげられる声の大きな人もいれば、最後まで何も言えない人もいらっしゃる。そのような違いを平等に、いろいろな子に話せる機会を作るとというのが今回の目的になります。

本日は、今年度の総合教育会議の開催が3回目ということで、今まで1回目、2回目の皆さんの総合教育会議の議事録を読ませていただきました。

1回目、児童虐待の現状について話し合われたのではないかと思います。(仮称)こども若者家庭センターの設置の話、発達支援、不登校の子もたくさんいるのですよ、というお話で議事録が残っていました。

そして2回目は、磐田市の教育大綱に対して、市長からお話があったように、培うという言葉がたくさん出ているのがこの大綱です。そして市長の最初のあいさつのところでは子どもの笑顔が最上段ですという、いろいろな話がでていました。教育長からは、教育大綱は理念であるとお話がありました。大きな木になる時というのは、おもしろいもので、木の下にいっぱい雑草を生やしたり、土をしっかりと耕したりしないと大きな木にはならないし、その木だけが水を吸ってしまうと一瞬大きな木にはなれるがすぐに枯れてしまう、だからこそ土壌をしっかりと作るということが必要と言われていきます。人づくりというのは同じではないかなと思っております。

また、委員さんからは、居場所がない子どもの話がでておりました。向き合える誰かがいればいいですねと、どなたかが言ってくださったかと思えます。私が携わる20代、30代の発達障害の子たちは、話すということがすごく不得意です。小さいころから誰かに相談するとか、誰かに聞くということをしつと押さえつけられている子が多いので、対話する機会を増やすことができなと思います。2人相談できる人がいるといいよと言われます。1人だとどうしても偏ってしまうので、2人相談する人を作って話をすることが大切です。そんな形で皆さんからの話を拝見いたしました。

さて、対話の話をしていきたいと思えます。対話って何でしょう。対話というのは、すごく曖昧なものではないかと思えます。一般的に私たちがよく使っているのは、まず会話で、最初に「今日、風強いですね」とか「雨、降らないですよね」など、会議などで隣になってしまったからしょうがなく会話をしなければならぬ。その人との距離感をとりあえず保つためによくそんな話をしますよね。それが会話だと思っています。

よくないのは、会話からはじまり、いきなり討論になってしまうということです。どうでしょう皆さん、会議で「今日はお忙しい中、足元の悪い中、夜遅い中、来てくださいますありがとうございます。今日は、A案とB案を決めたいのですが、皆さんから忌憚のないご意見をちょうだいしたいと思います。」ということはありませんか。

本当に大事なものは、真ん中の対話。大きなクッションです。相手のことを理解して、相手のことを知っているからこそこんな話がでるのだな、この人から。このことをしっかりと理解して、それからだと討論に役立ってきます。

例えば、牧之原市だったら原発やIRの課題など、難しい討論をしてきました。よくオープンダイアログ、対話はダイアログと言われますが、開かれた対話をしましょうという手法があります。難しいテーマの話し合いをするときに、本当に時間があつたらそのテーマのことを話さないというルールを決めて、前日の夜みんなでカフェに行き食事をする。そうすると実は、この人ってこういう背景があつたからこういう意見をするのだと感じて、意見は違っても相手のことを認めてあげられるということがたくさんあります。相手のことを知って、相手のことを心配した中での討論というのがとても必要です。一方的な話し合いという討論は避けていきたいとそんなことを

切に感じています。

対話することは、話の重なり合いを作る。いつも形式的な会議をすると、おそらく市長が議長で「皆さんご意見お願いします。順番をお願いします。」と言われると思います。そうすると、一番の方から順番にお話すると、隣の方が聞いていないのですよ。自分が次何を話そうかを考えていて、隣の方がこういわれますけど私はこう思いますとは、あまり言わないですよ。自己紹介もそうです。最初の方が言っているときに、自分が話すことをずっと考えてしまっていて人の話を聞くことができていない。

誰かと誰かの話が重なり合って、一方的にならない、そこで初めて生まれてくるものがたくさんあります。でた意見を共有することによって他の人の知恵をもらったりして、膨らませることが出来ます。そして、自分はこう考えているのだけこの人は違う、と言うことを認め合う。そんなことが出来ます。誰かに答えてもらうことで話の意義が見えてきたり、みんなで話し合いができたりすると空間が変わります、必ず。一方的に誰かが威張って話をして変えてしまうとすごくつまらない、寂しいものになりますけど、互いが意識し合って、話し合っていくことによって、いろいろな空間が新しく生まれてくるなということを感じています。

進行するのが私たちファシリテーターです。ファシリテーターというのは中立的な立場です。何かを決めなければいけない場面でファシリテートするときもあるのですが、誘導になってしまってはいけないので、自分の思いを我慢しています。我慢して皆さんどうですかと言って平等に聞かなければなりません。チームのプロセスを管理して、みなさんがチームワークを持ちながら、話し合いができるためのチームにするのがファシリテーターであります。ファシリテーターが活躍する場面は、ワークショップだけではありません。円卓の会議をすることもそうですし、例えば職場や、市役所なら異なる部署同士の会議などでも使えます。家庭でも使えると言われます。相手の意見を引き出す、一方的にならない夫婦関係が大切と言いますが、そんなところでファシリテートスキルが使える。リーダーや組織のトレーナーにとって大事なスキルであるともされています。今日みなさんにはこれを体験していただきます。参加者誰もが意見を広げることができる。誰かが言えないということはない。クラスで30人いれば30人みんなが平等に意見を言える、意見がなかなか言えない人も言える、そんな場を作っていきたいと思っています。

牧之原市で最初に始めた時は、100人を無作為抽出してワークショップを2日間やりました。無作為抽出で来るので、地域のいろんな人が来ていて、たまたま来たおばあちゃんが「私が小さいころは自分の家の前の川がすごくきれいだったので、あの川をまた孫に見せたいです。」と元気に話されました。もしかしたら審議会などでの委員さんからは出ない意見です。とても大切な意見です。そうしたらみんなが「僕もそうでしたよ。」とか、だったら環境の取組について「何かやってみましょうか。」という風に意見が重な

り合う。そのように対話が重なったからこそ、アンケートを取ったら全員がまたやりたいと、そのようなアンケートをいただいたので、牧之原市ではずっと対話を進めてきています。みんなが満足していたよ、誰かが喋るのではなく、みんなが喋ったよという場。あと笑顔で参加する。ファシリテーターが自分から意見を言わない、誘導しないで相手の意見に頷く。傾聴するというのがとても大事なことです。

そして今日、いつもと違う会議の形を取らせていただきました。机の配置です。四角にすると上下関係ができてしまいます。どうしても緊張感を持ってしまうので、あえてこういう形をとっています。あと、付箋や模造紙を配って使っていきます。「これに書くの嫌なんだよな」と言われるのですが、平等に書いていただくことによって、みんなから平等に意見が出ることもありますので、なんでも書いていいよということを子どもたちに示すためにも必要かと思っています。

あと、アイスブレイクをすると、不慣れな人や子どもが参加しやすくなります。今日の委員の皆さんは市役所に来るのが慣れている皆さんですが、やっぱり市役所に来るだけでも一般の市民は、ものすごく緊張するって言いますよね。どこに行ってもアクリル板があったコロナ禍で、もっと緊張して、市役所と市民が離れてしまっているのではないかと思います。ということもあり、アイスブレイクの必要性などが言われています。

続いて、私たちの対話のルールです。自分だけ話しませんということ。相手の意見を否定しない。楽しい雰囲気を作りましょう。相手の言うことをしっかりと聞きましょう。ということ、こんな形で今日はやらせていただきます。今日は、三役も来ていただいて大変恐縮ですが、みんな平等に、子どもの立場でやってください。6人でじゃんけんをしてグループのリーダーを決めて、自己紹介をしていただきます。じゃんけんをして勝った方がグループリーダーです。じゃんけんしてみてください。

～アイスブレイク・お題が書かれたカードを使った自己紹介～

原口氏

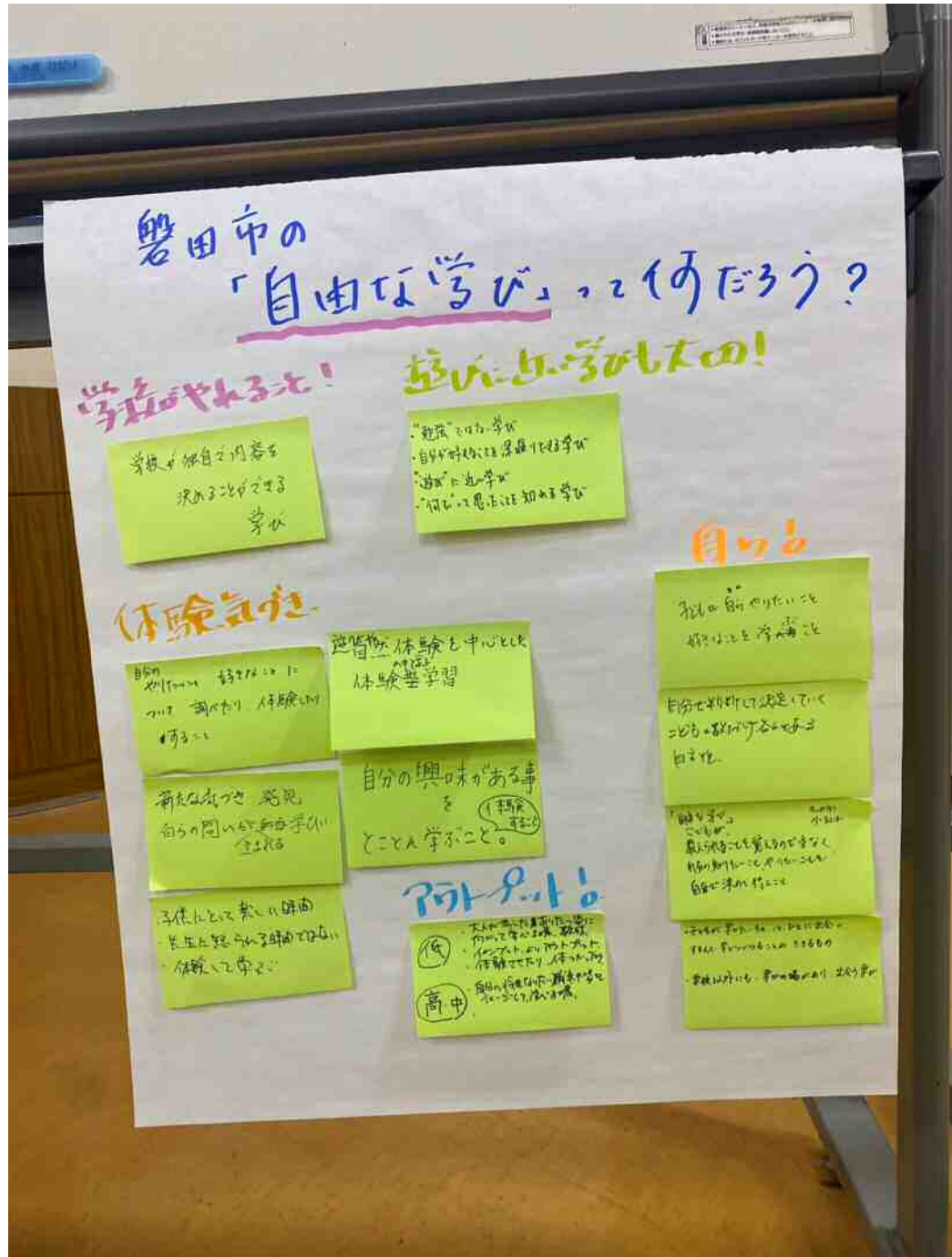
皆さんありがとうございました。人となりがわかりますよね。特に職員の方ってそうなのですが、市役所に来てすぐパソコンと向き合って仕事を始めてしまうことが多いですか。こういう機会、その人の全然知らない背景や、この人はこういう人だったのか、という気づきを得ていただきたいです。自己紹介ゲームは8歳以上くらいからが向いています。

それでは、だんだん本題に入っていきたいと思います。今日皆さんには、自由な学びということ、意見いただきたい、みなさんが考える、自由な学びって何だろう。皆さんきっと違うと思います。

付箋を1人1枚と黒いペンをお配りしてください。自分自身が考える、

今磐田市が行っている自由な学びって何だろう。例えば、子供が自由に発言できるように様々な体験をする学びなど、簡単で結構です。ご自身が考える磐田市の自由な学びとは何でしょう。今から2分間、お話を少しやめていただいで書いてください。お願いします。

～付箋へ意見書き～



原口氏

ありがとうございました。今、12枚出ました。これだけ違いがあります。でも、どれが正解でどれが外れとかではないのです。子どもを主語にしている人もいらっしゃいました。学校を主語にした方もいらっしゃいます。自分自身が興味あることを体験すること、学ぶこと、と言う考え方。それぞれ皆さんが違うと感じてもらうことが大切です。自分はこのことを書いたけど、他の方はこんなことを思ったのだなと言うことを踏まえた中で、自分たちが自由な学びについて話し合うと、実は自由な学びの捉え方は様々だなと言うことを、まずは最初の段階として感じていただくことがとても大事です。

さて、皆さんがこうやって思っていることを感じていただいていた中で、今現在の磐田市の自由な学びというのは、こんなことをやっていますということの説明していただきたいと思います。よろしくお願いします。

学校教育課長

学びによるまちづくりを目指す「磐田ここからラボ」の一環として、未来のまちづくりを担う子どもたちに、本物にふれる多様な経験の機会を設けることで、未来への夢や可能性を広げる礎とすることを目的に、令和4年度より、小中学校において「子どもの自由な学びを応援する事業」を実施しています。

本事業では、児童・生徒の自由で多様な学びの場を実現するために、講演会や体験学習、芸術鑑賞、ワークショップなど、普段の学校生活では感じることでできない「ホンモノ」や世の中のことに触れる機会を各校で企画し、学ぶことの本質的な楽しさを伝えています。

令和4年度には、オリンピック陸上銀メダリストの飯塚翔太さんの講演会や、学校が力を入れている活動でその学校の自慢となっている縄跳びやダンス、太鼓等のプロパフォーマーによる公演や実技指導、卒業生の落語家による落語鑑賞会、トランポリンでパリオリンピック出場を目指している谷口遼平さんによる実演と講話、米村でんじろうサイエンスプロダクションによるサイエンスショー等が行われました。

今年度も、各校において、教育大綱と関連付けながら、様々な活動が企画、実施されています。例えば、教育大綱「誇りを培う」と関連付けながら、豊田北部小学校では「遠州縞つむぎ体験」が行われました。江戸時代から遠州地方に伝わる織物「遠州縞つむぎ」について、遠州綿紬の歴史や発展に尽くした人物についての講話を聞いたり、縞つむぎを使ったしおり作りに挑戦したりする活動を通して、伝統を大切にしていきたいという思いを持つことができました。

また、富士見小学校では、平成27年度に、卒業生であるEXILEのAKIRAさんからプレゼントされ、学校の自慢にもなっている「富士見小ダンス」を盛り上げるため、プロダンサーに直接ダンス指導をしてもらいました。子どもたちは、富士見小のダンス文化を一層大切にしていきたいという思いをもつことができました。

教育大綱「こころざしを培う」と関連付けながら、豊田東小学校では「サイエンスショー」が実施されました。テンポのいい漫才と科学ショーを融合させた科学実験に、子どもたちは目を輝かせながら見入っていました。身近にある空気や水、静電気の科学を目の当たりにして、「どうしてこうなるんだろう？」とわくわくしながら考え、「科学っておもしろいな」と科学のおもしろさに魅了されていました。

福田中学校では、「今、何をすべきか」のテーマのもと、今後の進路や人との関わり方等について、漫才を交えながらご講演いただきました。講演後のお礼の手紙には「自分のやりたいことの見つけ方がとても勉強になりました。」「この講演を聞いた後に、家で、もう一度進路の話をして、前までなかなか進まなかった進路の話が途中までですが決まりました。」等の内容が書かれていました。

このように、「子どもの自由な学びを応援する事業」は、児童生徒にとって普段の学校生活では感じることのできない「ホンモノ」や世の中のことに触れる貴重な機会となっており、価値のある活動となっております。

以上、簡単ではありますが、「子どもの自由な学びを応援する事業」の説明をさせていただきます。

原口氏

ありがとうございました。今意見をだしていただいた皆さんが考えた自由な学び、行政が考えた自由な学び、磐田市の担当課で考える自由な学び、それを踏まえて皆さんどうでしょうか。

これから磐田市に必要な自由な学びの場、何が必要なのだろうとすることを考えていただきたいと思います。どんな学びの場があったらいいのか、誰からの学びなのか、いつから学ぼうか、どんな仕組みがあったらいいのか、他の事でも結構です、自由な学びこれからはますます発展させていくには、何が必要だろうについて、自由な発想で考えていきたいと思います。

～グループワーク～

原口氏

それでは発表にうつります。全員で前に立っていただいて発表してください。

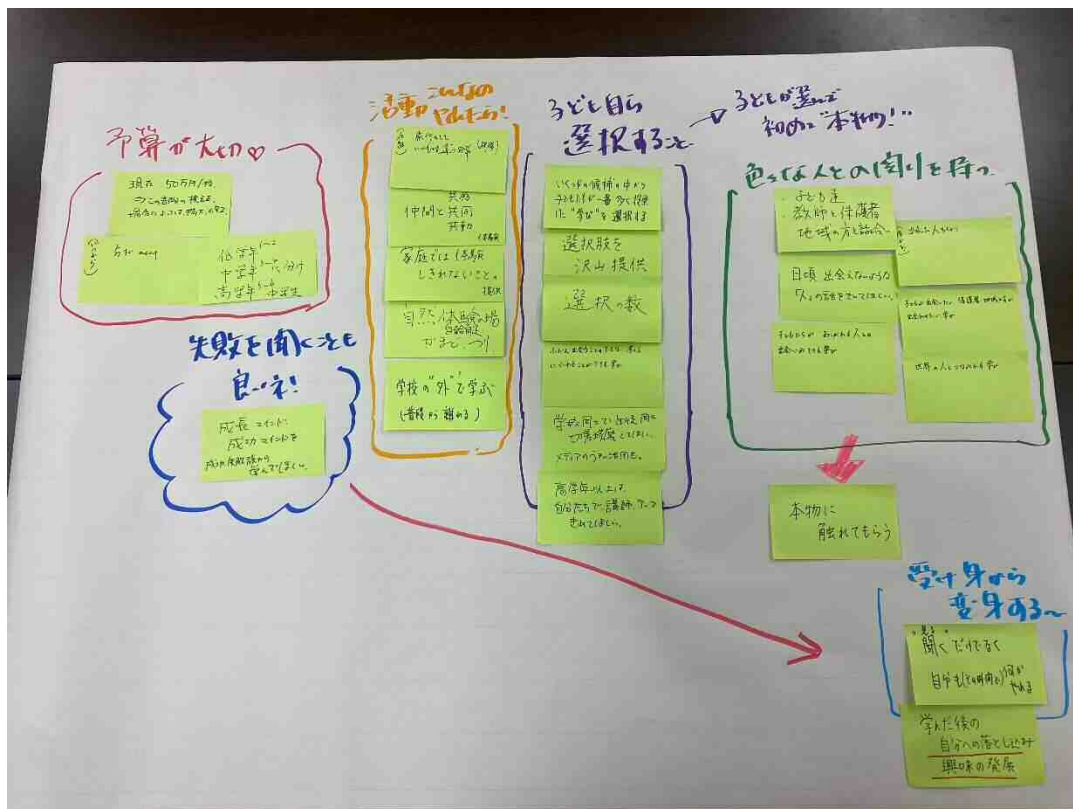
委員

今磐田市がやっている自由な学び、いろいろ活動していますが、ホンモノに触れてもらうということで、今もホンモノに触れていると思いますが、そのホンモノの選び方について、子どもが自ら選択するということが必要ではないかと。今は学校側が選んでいるということが主になっているので、子どもが主になって選んでいく、さらに子どもだけではなくて、教師や保護者、地域の方の意見も聞きながら選んでいくと。選んだ内容について、子ど

もが自分達で選んだので、その内容の定着や、学んだあとの自分への落とし込み、今後の発展性も今以上に出るのではないかと考えました。

あと、ホンモノの講師を選んだら、成功体験の話だけではなくて、失敗の中から学んだ体験談が必ず必要になってくると思います。

最後に、これらを進めるためには、お金が必要になってくる。今まで以上の予算付けが大切になるのではないかと考えます。以上です。



(A班の意見集約)

原口氏

ありがとうございました。次のグループお願いします。

教育総務課長

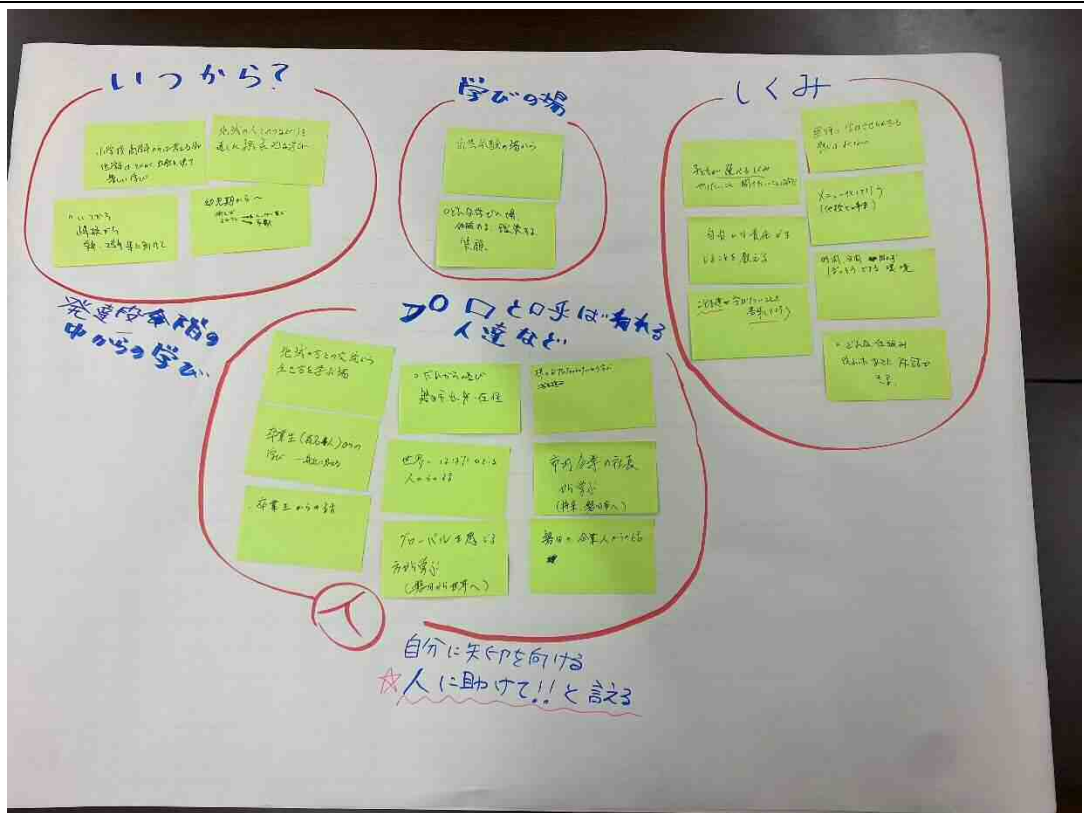
では、発表をさせていただきます。私たちのグループのメインは人です。どのような人から学んでいくか、ということが中心となっています。磐田の企業の方や、学ぶ子供たちが自分ごととして、自分の将来に目を向けられるような方々を講師に迎えて学びを設定していく。

そして人に助けてと言えるような人になる学びを作っていけたらいいと思っています。

また、いつからということであれば、発達段階の中から成長に合わせて行っていくことが必要なのではないかと考えました。

また、学びの場としては自然体験をやっていくのも大切なことだと思っています。

仕組みについては子供たち自らが選択できるような形を作っていくのがよろしいのではないかと考えます。以上です。



(B班の意見集約)

原口氏

ありがとうございました。市全体で磐田の子ども達のことを考えていくことがとても大事ではないかと思えます。

発表を振り返ります。最初のグループです。自分たちが学ぶのだから自分たちがホンモノを選べばいいのですよね。学んだことによってどうなったと振り返りをできていない、いろいろな学びの場を作っていく中で、それに対してアンケートや感想を書きますが、みんながそれに対して話し合う時間を作ればもっと、今日の学びというのが深くできるのではないかと思います。教育課程の中でなかなかそこまで時間を取るの難しいかもしれませんが、形を作りながら行うということも大事ではないか、そのようなことも聞いていて思いました。やっぱり一方的になってしまうのがもったいないなど。みんな感動しましたとなると、それに対してみんなで話し合いができればもっと深まるのではないかと思いました。

2つ目のグループです。助けてと言える。20代、30代の発達障害の子たちはどうしても言えない。あの子たちが小さいころ誰かに助けてという癖をつけられていたなら全然違います。

発達障害の指導っていつから始まっているか知っていますか。物心ついた時からです。物心ついた時から指導します。譲り合いや、社会的ルールをちゃんと培って就労に結びつけていくことが必要だと言われています。本当に幼少のころから、しっかり誰かに助けてといえるような子たちに育ていく必要があるのではないかと思います。

以前、アイスブレイクで、発達障害の子も含めた中で、冬というテーマを

みんなでぐるぐる連想してもらいました。雪だるまやツリーなどの意見ができる中、ある女の子がプールと言ったのです。そうしたら仲間たちが否定したのです。その子にちゃんと聞いたら、夏はお父さんが忙しくて、どこにも連れて行ってくれなかったのですが、冬になったらいつも温水プールに連れて行ってくれるのが私にとって大事な冬なのですと。そうするとそれって多様性ですよ。そっか、ごめんねとみんなが謝って、いろんな意見を言っ
ていいのだよと自信をたくさんつける。

また、デジタル化が進み便利になって、今の子どもたちはテレビや水道を捻るがわからない。絞るもできないので、雑巾を絞るということも全然経験したことがない。そういう体験をたくさん積むことによって、世の中に役立つことができいくということたくさんあると言われてます。

なので、子どもたちがこれからいろいろな形で何を目指したらいいのだろうか、こういうことはみなさんのからいっばい提案していただくということが必要なかと思えます。安心安全な場所を作るのが大人たちの役割で、支える立ち位置かなと思っています。ただし、聞いていいとか、そういう心を育む場づくりをしていく対話の場です。

子どもたちがこういう形式で話し合ってもらおうと、いろいろ意見がでてきます。今、私が携わっている学校の再編の課題なども、子供たちに絵を書いてというと学校の絵、新しい学校のデザインをしてきます。保健室の場所など、自分たちの目線で意見を言ってくれるのですよね。私たちは背の高い目線で言ってしまうんですが、子どもの目線の声ってすごく大切なので、子どもたちが対話できる場所を学校とか家庭とか地域とかいろいろなところで作っていったらいいのではないかなと思っています。

今日は本当に簡単な形でやらせていただいたので、1時間というすごく短い時間でそんなに細かくはできなかったのですが、このように皆さんがたくさん意見を言うことがとても大事だと思います。これだけの意見を四角い会議で順番に発言していただけたと言えないですよ。ですが、こうやって皆さんが目の前に居ながら対話をすることによって、全然違ってくる。そのような形で多様な場というのを作っていただければと思っています。私からは以上です。市長にまとめていただければと思います。

市長

ありがとうございました。原口さんに質問や助言をいただきたいことがあればお願いします。教育部長どうぞ。

教育部長

今日ファシリテートの話があったのですが、組織のなかで役職のある職員だけではなく、若い職員からの意見を聞きたい。声をかけられたい。そういう場面でファシリテートスキルを活用するにはどのような行動をすればよいですか。

原口氏

ありがとうございます。特に市役所では、役職のある職員さんは、あなたはこちらに行って、あなたはここでこういう作業をする、などの指示をするのは得意なのですが、思いの共有ってしていないですね。1年間終わったら、この課はこうしていきたいよね、この部はこうなっていきたいよね、このプロジェクトによってこのように市民に周知していきたいよね、ということってあまり話していないですね。まずはそこをしっかりとやって、今は何ができているかと、みんなからしっかりと声を上げてもらうことが大切。

100回ワークをやるなら1回休め、とよく言われます。1回振り返れと。今自分たちは、突っ走るのではなくて、自分たちは何をやっているのか1回振り返らなければいけないよと。企業の研修で耳にするのは、企業の方はやっぱり事務とか売り上げに追われてしまって、社員の気持ちなんかは全然考えてなかったりするんで、1回振り返る機会を作ってあげたらいいと思います。

急に君はどう思うとか、部長に言われるとなかなか若い子は言えないです。一度、少しでも顔を合わせてみんなでワークをやってみると、若い子たちは全然違うことを思っていたりします。

先日、若手職員の研修をしたら、上司があいさつをしないという意見が多くありました。実はそうやって初めて気づくことがあったりするんで、それだけでも全然違ったりしますよね。やっぱりそういうことを言うのも大事ですが、でもなかなか上司の前で言えないので、こういう形式をとってもらうのもいいのではないかと思います。磐田にはファシリテーターがたくさんいますので、ぜひご活用いただいて。

市長

ありがとうございます。協議事項1のまとめに入ります。

原口さん、本当にありがとうございました。いろいろな発見があったし、これを学校や地域にどうやって落とし込もうかなということを考えていくきっかけになったのではないかと思います。最初に申し上げた、学校の先生と子ども、それから子どもの保護者や児童・生徒同士、保護者同士など、いろいろな組み合わせによって対話って大事なのではないかなと思います。

今、原口さんより教育部長からの質問への回答で、職員同士の話もありましたが、一時期会議をやること自体が時間の無駄という風潮もあったし、私が一方的に話している会議も多いので、そういう会議は必要最小限にしていかないといけない。互いに理解を深めるとか、認め合うということでの対話がすごく重要ではないかなと思います。自由な学びや、磐田ここからラボでも、やっぱり私自身皆さんに対して、特に職員に対して指示があまりできていないことがたくさんあります。それを今日皆さんと一緒に考えてみて、ちょっとずれているな、ここは一致しているな、というのが分かったので、ものすごくいい発見だったなと思っています。

突き詰めていくと、安心できる場を作るというのは、特に子どもたちが安心できる場、学びを発表できる場と言うことがすごく大事だと思っている

ので、磐田ここからラボ、特に自由な学びを通じて、子どもたちも先生たちも色々なことを考えて対話する場をもっともっとたくさん作っていききたいなと思っています。そのような思いで取り組んでいるということを、教育委員の皆さんたちと共有できて、本当によかったなと思っています。

また、次年度予算編成が行われていますが、お金がかかることと、お金がかからないこともあるわけで、来年度は共に創る「共創」というテーマを掲げて、一緒に作っていきこうとか、こういう形でファシリテーターというものを取り入れて一緒に考えていきこう、一緒に取り組んでいきこう、というムードを市全体に伝えていくということについて、予算を見える化していくつもりですので、しっかりと次年度予算に向けて対応していきたいなと思っています。ありがとうございました。

続いて、2つ目の協議事項に入ります。令和6年度の総合教育会議について、今年度と同様3回の会議を予定しているところです。年度当初、中期、後期それぞれで想定をしております。

今年度は事務局がテーマを決めましたが、来年度の3回開催のうち1回は教育委員からテーマを募集して協議を深めたいと思っていますので、また募集方法等について、皆さんからご提案があったらお願いします。皆さんから何かご質問などありましたら。

委員 教育委員がテーマを考えるのは3回のうちいつを予定していますか。

市長 夏ごろ開催予定の2回目を想定しています。

委員 その際は、できれば時間もう30分ぐらい時間を伸ばしてもいいですか。

市長 その会議は30分伸ばして2時間での開催、調整します。

それでは、今確定したことは、総合教育会議は年3回行う。中期の第2回は、教育委員にテーマを決めていただくということです。協議事項は終了です。ご協力ありがとうございます。

それでは進行を事務局にお返ししたいと思います。皆さんご協力ありがとうございました。

事務局 長時間にわたるご協議ありがとうございました。

今年度予定されていた総合教育会議は終了となります。次年度以降、今の話も踏まえて、引き続き相互連携を図りたいと思いますので、ご協力いただけますようお願いいたします。以上で総合教育会議を終了します。ありがとうございました。